

2014年度 法科大学院
第2回未修者入学試験問題
(小論文方式)
試験時間90分

注意事項

- イ) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ロ) この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
- ハ) 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- ニ) 解答は必ず解答用紙に記入してください。下書き用紙は回収しません。(解答用紙取り違えの申出には一切応じません)
- ホ) 参照は不可となっています。
- ヘ) 解答用紙の取替え、追加配布はしないので、汚したり折り曲げたりしないこと。
- ト) 試験問題の内容等について質問することはできません。
- チ) 問題冊子の余白等は適宜使用して構いません。
- リ) 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰ってください。
- ヌ) 故意・過失を問わず、解答欄に受験者の氏名又は受験者を特定すると判断される余事記載のある解答は無効となります。

次の文章は「言葉は身振りから進化した」マイケル・コーバリス著・大久保街亜訳の抜粋である。末尾の問いに答えなさい。

(この問題は著作権の関係により、文章の出典のみを表示します。)

出典：マイケル・コーバリス著、大久保街亜訳「言葉は身振りから進化した」(勁草書房)第3章、第6章から抜粋(原文は縦書)。一部注釈を施している。

設問1 音声言語と手話言語の相違について、600字以内であなたの見解を述べなさい。

設問2 筆者は、手話しか知らない者にとって、書き言葉を学ぶことは外国語を学ぶようなものであると述べているが(下線部分)、筆者がこのように述べる理由を200字以内で説明しなさい。